

国際経済学科のゼミナール

Department of International Economics SEMINAR



「難しい文献も全員でなら継続できる経験」を意義とする岩佐ゼミナール。議論を通して、ミクロとマクロ・抽象と具体など、偏らない視点から現実を見つめる面白さを学ぶことができる。



岩佐 卓也ゼミナール

Iwasa Takuya SEMINAR

「グローバル資本主義と労働」を捉える力を養う

岩佐 卓也 教授

私はドイツの労働問題を専門としていますが、ゼミナールでは「グローバル資本主義と労働」を中心的なテーマとしながら、様々な領域の社会科学・人文科学の文献を読んでいます。「文献を一人で読むのはしんどいが、みんなと一緒にならば何とか読める」という経験ができるのがゼミナールの意義だと考えています。ゼミナールの議論を通じて、ミクロの視点とマクロの視点、具体的な事例と抽象的な理論、1つの立場から問題を論じることとその立場を相対化すること—こうした両極を絶えず往復して、現実を深く理解する楽しみを実感してほしいと思います。

先生からの詳しい解説で内容を理解できます

3年 橋本 さらら さん

岩佐先生のゼミナールには現在3年生6名、2年生4名の計10名が在籍しています。「グローバル資本主義と労働」を中心的なテーマとし、様々な領域の社会科学・人文科学の文献にフォーカスを当て書籍から知識を身につけ、ディスカッションし、理解を深めています。“資本主義や株”と聞くと、小難しいように感じるかもしれませんが、心配はいりません。なぜならゼミナールに所属した際には岩佐先生の詳しい解説を聞き、理解することができるからです。また、賑やかな雰囲気と笑顔が絶えない仲の良さが、本ゼミの特徴です。もちろん授業中は真剣に取り組んでいるため、やる時はやる、楽しい時は楽しく！メリハリをつけて励んでいます。これからも皆で協力してより良いゼミナールを目指していきたいです。

海外特別研修



「海外特別研修」は、2～4年生を対象とした選択必修科目です。国際経済を現実に即して複眼的に学ぶために、海外諸国の経済社会の特質や国際的諸問題を、現地研修を通じて理解することを目的としています。授業はセミナー形式の少人数制であり、前期授業での事前学習をふまえて、夏休休暇中に現地研修に赴き（各自スタディツアーに参加）、帰国後の後期授業で研修成果の分析・報告を行います。2019年度は、「国際協力」「東南アジア」「欧米」を研修地域・テーマとする3クラスが展開されました。



イギリス文化や言語について本場オックスフォードで学びを深める

2年 亀山 颯太 さん

元々イギリスの文化や英語に興味があったことが、海外特別研修を履修したきっかけです。研修では、事前学習として基礎的なことについて学び、夏休みにオックスフォードにあるCIE (College of International Education, Oxford) で英語を学びます。また帰国後の学習では、2023年に戴冠式が行われたウェストミンスター寺院へ行った際、大変賑わっていたことが印象的だったので、観光スポットとなった寺院の経営的側面が気になりレポートにまとめました。慣れない海外では困ることもありましたが、同時に学習のモチベーションが向上しました。



世界に触れることで、特別な体験を

Department of International Economics

NGO論



この講義の目的は、発展途上国への開発支援を行うNGO（非政府組織）の活動を実体験を通じて学ぶことにあります。国際開発協力に関する理論や事例研究に加え、NGOで働くゲストを交えて少人数で授業が行われること、そして夏休休暇中に学生自らが選択したアジアやアフリカ、中南米等の国を直接訪問して現地でのNGOの活動を直に体験できることが、この講義の魅力といえるでしょう。



異なる環境での暮らしを知り衝撃を受けたメキシコでの経験

3年 小野 留奈 さん

「NGO論」では、1年間を通して様々なNGO団体が行う支援のあり方を学びました。私がこの授業を選択したきっかけは、子どもの貧困に興味があり、現地へ赴いてストリートに暮らす子どもたちと直接関わる貴重な機会に強い魅力を感じたからです。スタディーツアーで自分とは異なる環境に暮らす子どもたちやシングルマザーたちから聞いた話は、衝撃的なものばかりでした。この経験をもとに、彼らのような貧困に苦しむ人々と関わることで、国際社会に発信し、私たちと彼らの間にある壁をなくせるような活動をしていきたいです。

